報道関係者各位　　2026 年 11 月 6 日

PRESS RELEASE

未来のエスキースを描く。
東北工業大学

東北工業大学の学生がJR東日本の観光列車「だてSATONO」のオリジナルアロマ関連ツールをデザイン

～宮城県内の鉄道林から生まれた香りを、デザインの力で発信～

株式会社グリーディー（本社：宮城県仙台市、代表取締役：浜出 理加）が担当した、東日本旅客鉄道株式会社（以下、JR 東日本）が 2026 年 12 月 4 日から仙台～女川駅間で運行する観光列車「だて SATONO」の車内に設置されるオリジナルアロマの香りの企画・開発に際して、東北工業大学 デザイン経営研究室（指導：下總 良則准教授）の 3 年生有志の学生たちがボトルラベル、試香紙、紹介パネルのデザインを担当しました。
鉄道林を活用した「だて SATONO」オリジナルの香りが、運行 3 年目を迎える今年度、初めて車内に登場します。宮城県内の鉄道林の維持管理に伴い発生したスギの枝葉を、株式会社グリーディーが水蒸気蒸留して得た精油をベースに開発されました。
学生たちは、香りの魅力や鉄道林の背景にあるストーリーを利用者に伝えるため、各ツールのデザインを制作しました。地域資源を活用した新たな取り組みに、学生ならではの視点とデザインの力で参画しています。

◆鉄道林から生まれた「だて SATONO」オリジナルアロマ

鉄道林は、吹雪やなだれ、土砂崩れなどの自然災害から線路を守るために整備された、スギやケヤキなどの森林（防風林）です。

今回は、宮城県内の鉄道林の維持管理に伴い発生したスギの枝葉を活用し、株式会社グリーディーが水蒸気蒸留によって精油を抽出しました。これまで森の中に残されることが多かった枝葉を、香りという新たな価値へとつなげる取り組みです。

◆旅に寄り添う、森の香り

鉄道林から抽出したスギ精油の清々しさをベースに、森の静けさや安心感を重ね、明るい柑橘の香りをアクセントに加えた天然アロマスプレーです。

地域の素材と、その土地にまつわる物語を香りで表現してきた「天然回帰」の視点から、「だて SATONO」の旅に寄り添う香りに仕上げられています。

ホッと肩の力が抜け、また一歩踏み出したくなるような香りを、旅の記憶とともに楽しむことができます。

◆東北工業大学の学生がデザインを担当

デザイン制作には、東北工業大学 デザイン経営研究室（指導：下總 良則 准教授）に所属する 3 年生の有志学生 5 名が参加しました。

それぞれのデザイン案が採用され、以下の学生が担当しました。

ボトルラベル：小野 心寧さん

試香紙：鬼怒川 倫央さん

紹介パネル：戸田 蓮人さん

【参加学生】

阿部 茉柚香さん、小野 心寧さん、川田 悉来さん、鬼怒川 倫央さん、戸田 蓮人さん

報道関係者各位　　2026 年 11 月 6 日

PRESS RELEASE

未来のエスキースを描く。
東北工業大学

◆学生が考案したデザインコンセプト

【ボトルラベル／小野 心寧さん】

ラベルの背景には、鉄道林を連想させる葉と木を上下に配置し、車窓から見える景色をイメージしました。波模様には山並みを取り入れ、緑の葉は水彩画のような柔らかいタッチで描くことで、親しみやすさを表現しています。また、木の部分は、まっすぐ美しく伸びる鉄道林をイメージし、縦のラインを強調して仕上げました。



ボトルラベル／小野 心寧さん

【試香紙／鬼怒川 倫央さん】

「鉄道林からの癒しと旅」をコンセプトに、鉄道林のスギを活用した香りが、「だて SATONO」での旅に癒しをもたらす様子を想像し、表現しました。

【紹介パネル／戸田 蓮人さん】

杉の葉と緑と黒を中心とした文字の配色で、杉の香りと大人の落ち着いた雰囲気を表現しました。



試香紙／鬼怒川 倫央さん



紹介パネル／戸田 蓮人さん

本学では、今後も企業や地域との連携を通じて、学生が実践的な学びを深め、社会に新たな価値を提案する機会を創出していきます。

取材をご希望の場合は、下記までお問い合わせください。

お問合せ先
東北工業大学 入試広報課　〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1
Phone:022-305-3144　Facsimile:022-228-1813　E-mail:kohositu@tohtech.ac.jp